

栗駒山の火山活動解説資料（平成30年7月）

仙台管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1～図5）

大柳及び展望岩頭に設置している監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

25日に岩手県の協力により実施した上空からの観測では、ゆげ山、地獄釜、昭和湖及びゼッタ沢上流の噴気や地表面の状況に特段の変化は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図6）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

なお、栗駒山周辺では、「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震」の余震域内で地震活動が続いています。

・地殻変動の状況（図7、図9）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成30年8月分）は平成30年9月10日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。



図1 栗駒山 山頂周辺の状況（7月1日）

・大柳（山頂の南東約20km）に設置している監視カメラの映像です。



図2 栗駒山 昭和湖及びゼッタ沢上流周辺の状況（7月1日）

・展望岩頭（昭和湖の南南西約900m）に設置している監視カメラの映像です。

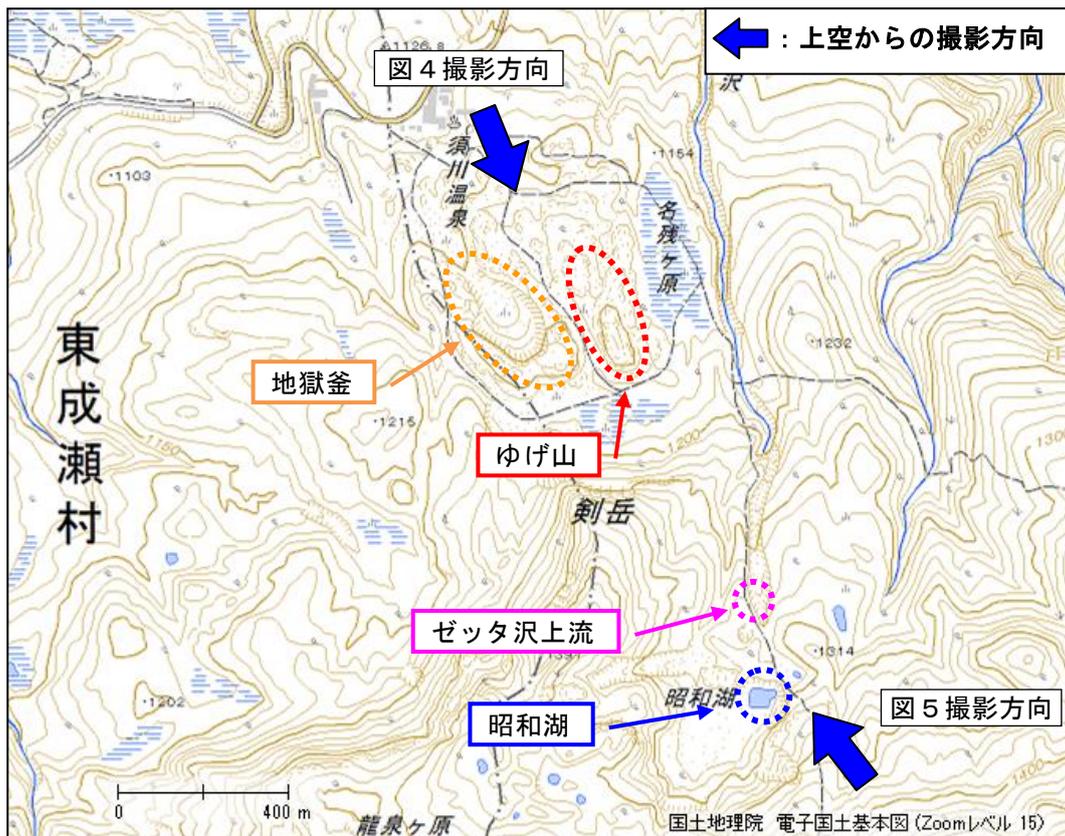


図3 栗駒山 昭和湖、ゼッタ沢上流、ゆげ山、地獄釜の上空からの写真の撮影方向

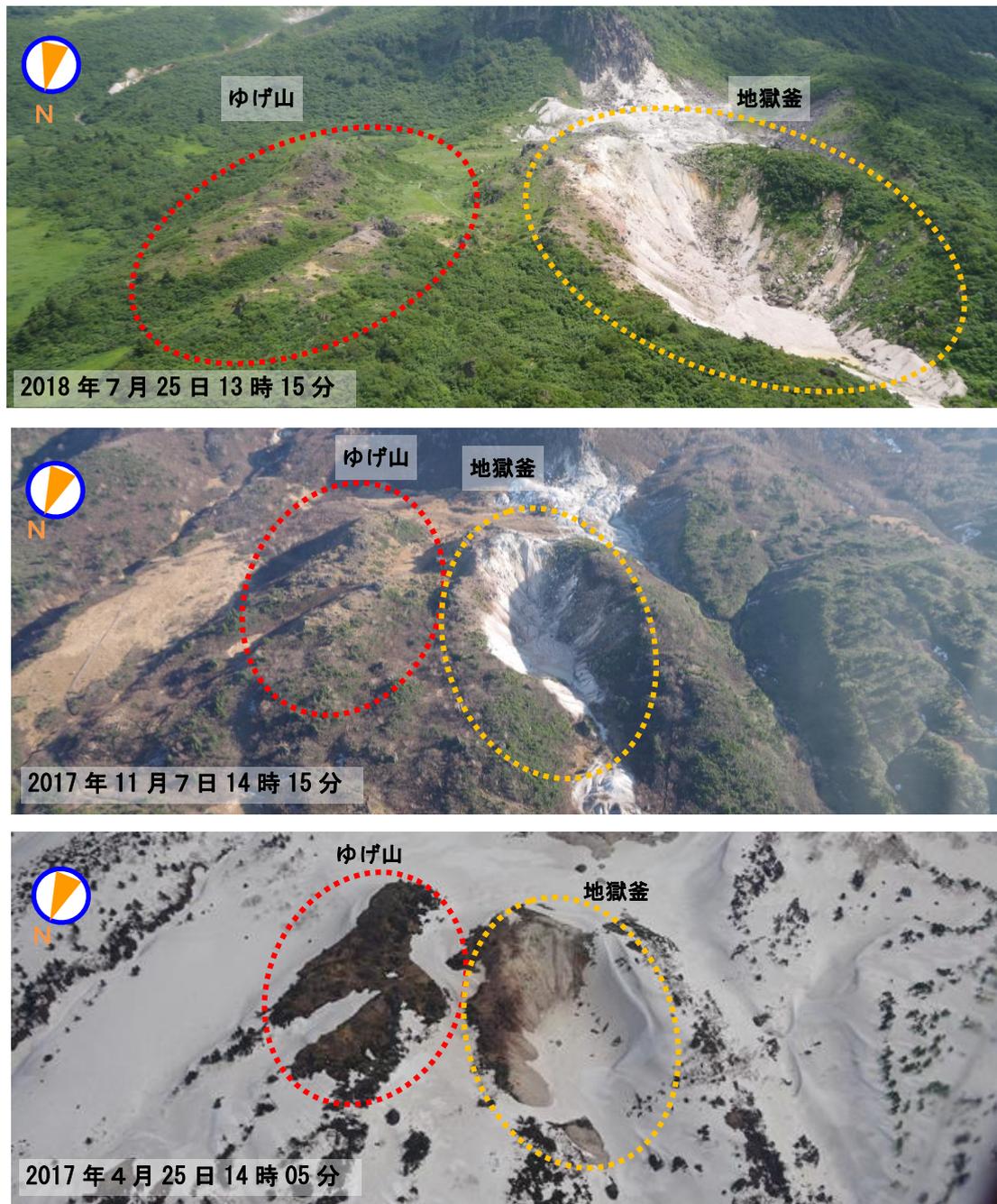


図4 栗駒山 上空から撮影したゆげ山及び地獄釜付近の状況

- ・ ゆげ山及び地獄釜の噴気や地表面の状況に特段の変化は認められませんでした。
- ・ 岩手県の協力により撮影しました。
- ・ 図中の破線の色は図3に対応します。



図5 栗駒山 上空から撮影した昭和湖及びゼッタ沢上流の状況

- ・昭和湖及びゼッタ沢上流の状況に特段の変化は認められませんでした。
- ・岩手県の協力により撮影しました。
- ・図中の破線の色は図3に対応します。

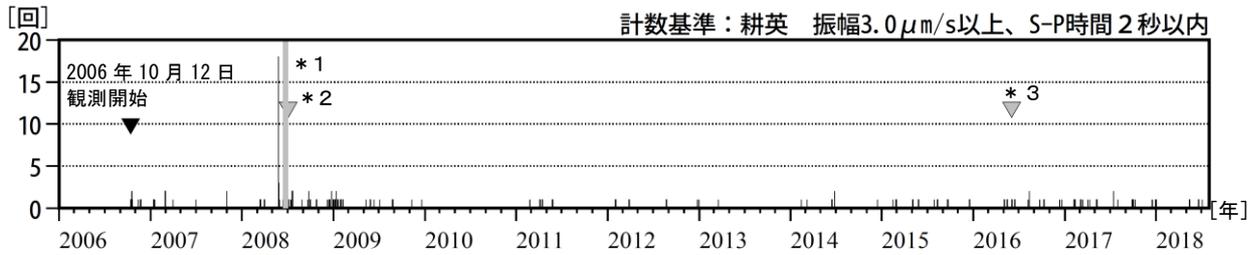


図 6 栗駒山 日別地震回数（2006 年 10 月～2018 年 7 月）

・基準観測点の変更は次のとおりです。

観測開始 2006 年 10 月 12 日～旧耕英観測点

* 1 2008 年 6 月 14 日～7 月 2 日 18 時（図の灰色部分）まで「平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震」の影響により観測不能

* 2 2008 年 7 月 2 日～小安^{おやす}観測点（2010 年 10 月 8 日まで）及び広域地震観測網

* 3 2016 年 6 月 1 日～耕英観測点

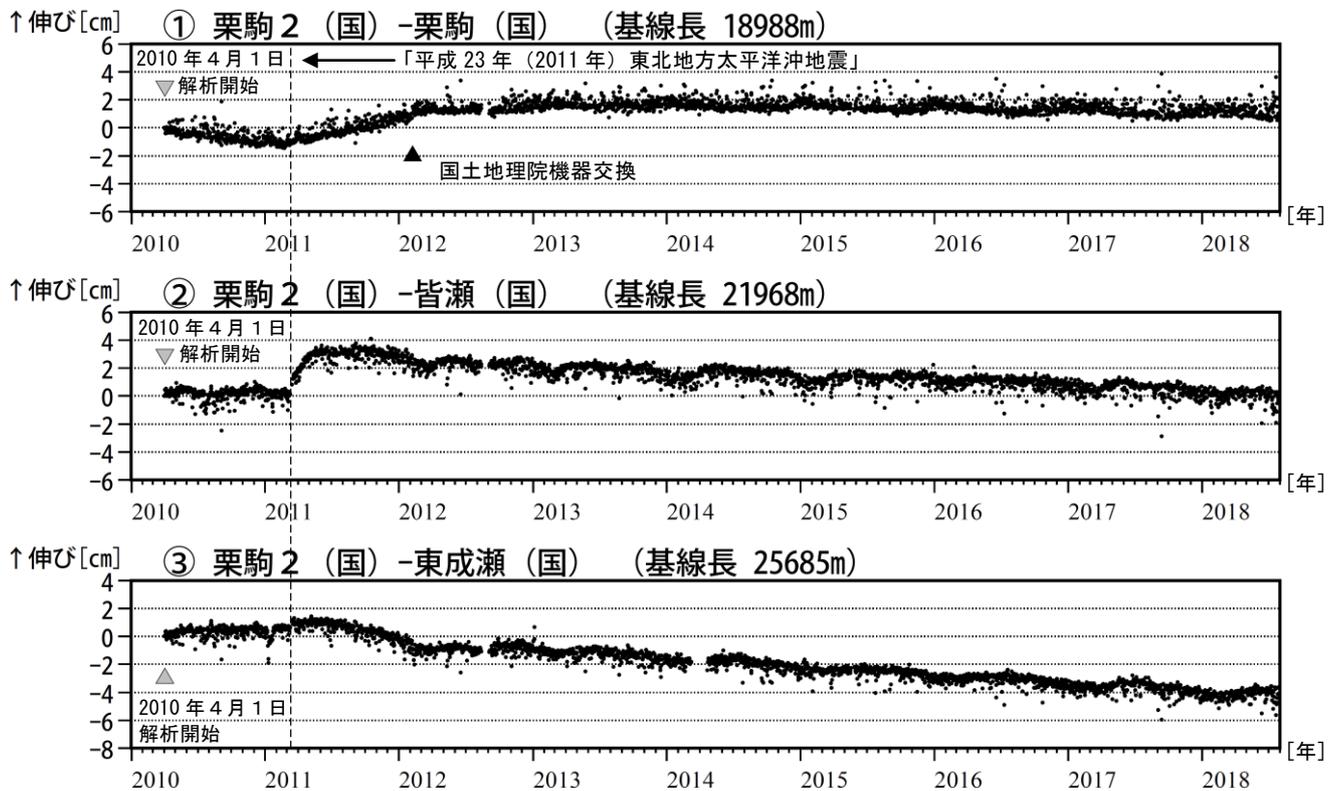


図 7 栗駒山 GNSS¹⁾ 基線長変化図（2010 年 4 月～2018 年 7 月）

・「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。

・①～③は図 9 の GNSS 基線①～③に対応しています。

・グラフの空白部分は欠測を表しています。

・(国) は国土地理院の観測点を示します。

1) GNSS とは Global Navigation Satellite Systems の略称で、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示します。

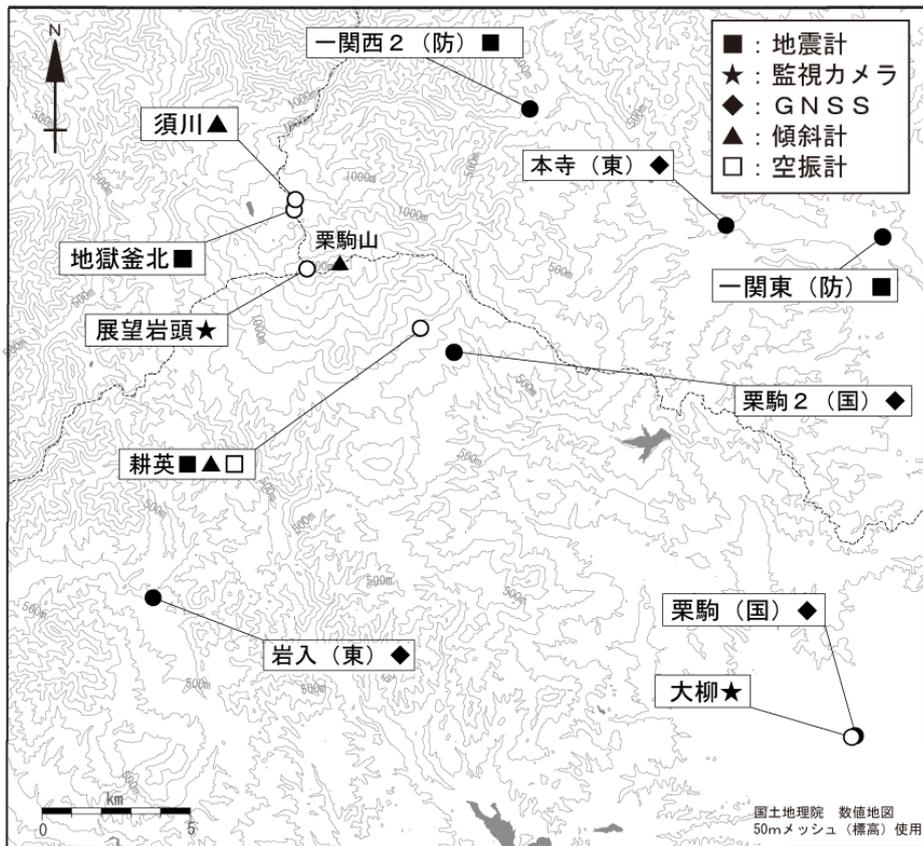


図8 栗駒山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所

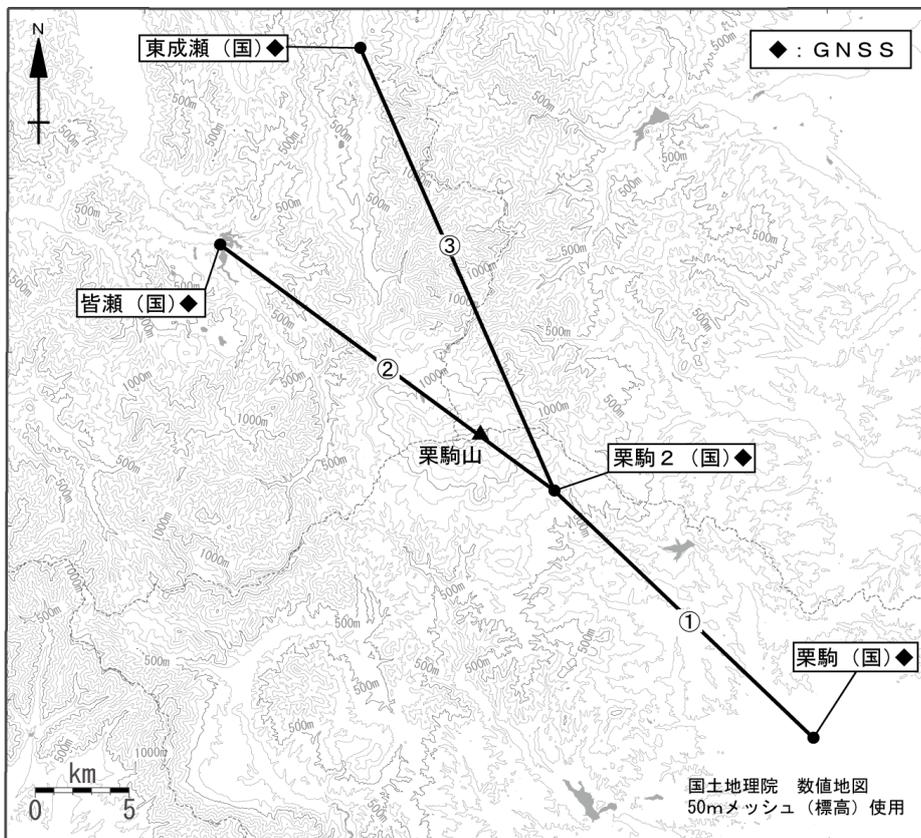


図9 栗駒山 GNSS 観測基線図

小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院